

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0172500191		
法人名	特定非営利活動法人 ロータス会		
事業所名	グループホーム 延寿園		
所在地	余市郡余市町黒川町12丁目3番地 (電話) 0135-22-1132		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年2月16日	評価確定日	平成21年3月13日

【情報提供票より】 (21年 2月 3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 18人, 非常勤 5人, 常勤換算 9.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	光熱水費 6,000円	
			暖房費(11～3月)4,300円	
敷金	有()円・無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(56,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300円	昼食	200円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月 3日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	2名	要介護2	10名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	60歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	よいちクリニック、勤労者医療協会余市診療所、みずの歯科医院、中島内科
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「延寿園」は、低廉な料金設定により利用者の経済的負担を少なくし、地域の認知症高齢者の尊厳ある生活保障を理念に謳い、良好なチームワークの下、家庭的な温もり感のあるホームです。利用者一人ひとりを深く理解しようとする職員の姿勢は、自由なその人の望む生活をきめ細かく支援し、ゆったりとした利用者の暮らしが窺えます。家族交流会の開催、運営推進会議の活発な活動と、様々な人達との関係性が活かされたホーム運営が特徴です。地域の方々に日常の感謝として開催した2日間の「盆踊り」は盛況を博し、地域のホームとして存在感が深まりをみせています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員全員での理念の共有や地域との交流、同業者との実質的な交流など、前回の改善課題については、段階的な課題改善に取り組み、成果が見られます。また更なる取り組みも継続しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成に当たっては、職員が各シートを分担し、全体で検討を語り、日々のケアの確認や改善課題の抽出につなげています。ホーム全体として評価の意義を理解し、積極的な改善姿勢を保持し、確実な質の向上を目指しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期開催を重ね、ホームのサービスの質の向上に有効に作用してきています。特に事例報告やほかのホームの見学・学習会は、参加メンバーの認知症やグループホームのより深い理解につながり、ホームの運営への活用はもとより、地域交流や介護福祉同業者との連携など活動の拡大に至っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との関係性を重要視し、来訪時や電話連絡の際など、日常的に丁寧なコミュニケーションを語り、家族の自由な意思表示を促す取り組みに努めています。運営への反映や迅速な対応など、ホームとしての方向性が示されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的な地域の方々との交流は徐々に進められています。ホーム主催の行事には、大勢の地域住民の参加をいただき、またクリスマスやお雛様などでは地域や学生ボランティアの来訪があり、ともに楽しい時を過ごしています。地域貢献として、ホームの専門性を活用した「認知症ケア講座」の開催も予定されています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初より、経済負担の少ない低廉な利用料により、地域の中で当たり前の生活を保障する独自の理念を策定し、地域密着型ホームとして、その人らしい生活支援に取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念は、ショートミーティングで毎日唱和を行ない、理解・浸透を図っています。また管理者は新人研修はもとより、ケア場面において理念の具現化を図り、職員全員が共通認識の下でのケアサービスの実践に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度は積極的に地域交流に取り組み、地域住民に日々の感謝として、ホーム前庭で2日間の「盆踊り」を開催し、多数の住民の方々の参加をいただいています。またホームの専門性を活用し「認知症ケアの講座」の開催に向け、準備している状況にあります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価作成に当たっては、職員全員が自ら分担して取り組み、全体での検討を諮り、日々のケアサービスの確認や改善課題の抽出に繋がっています。前年の課題については、段階的な課題解決に取り組み、確実な質向上を目指した姿勢が窺えます。		

余市町 グループホーム 延寿園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はサービスの質向上に有効に作用しています。2ヵ月毎の定期開催を重ね、特に事例報告やほかのグループホームの見学・学習会の実施は、参加メンバーのグループホームや認知症へのより深い理解につながる貴重な機会となり、地域交流や同業者との連携など活動の拡大に至っています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険事務などに関しての連携のほか、町内全体のグループホームの質の向上に向けて協働が図られています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月の支払いをホーム持参でお願いし、家族の来訪時に職員全員が対応し、関係性を重視しています。月に1度の「延寿園便り」や、個人別に生活状況や健康状態、介護の留意点など、詳細なお便りも送付して、家族の安心に配慮した報告を行なっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱への意見などの表出はありませんが、日常的に家族との丁寧なコミュニケーションを心掛けています。その中で自由な意向表出が促されてきており、運営への反映や早急な対応など、ホームとしての方向性が示され、家族の信頼につながっています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動による弊害を認識し、ホーム内で若干の異動はあるものの、行事などユニット間の交流を通して、利用者にとって馴染みの職員での安定したケアサービス提供に努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び一部の職員の外部研修は実施されていますが、職員の力量、経験に応じた研修機会の確保がまだ十分ではありません。	○	地域密着型サービスの更なる実践力を身に付けていくために、職員の希望する研修や、職員の段階に応じた外部研修、また受講後の報告を兼ねた内部での研修の充実など、計画的な研修機会の確保への取り組みを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホーム協議会の設立が予定され、町内同業者とのネットワーク作りが着々と進められています。今後は具体的に職員を対象にした相互交流や学習会を持つ方向にあり、質向上に向けての取り組みが始まっています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には見学や、一緒に過ごす経験をしていただいています。利用者のホームでの新生活スタートには、不安感などの心情を十分に汲み取り、関係者からの情報収集やきめ細かな見守り、介助により、まず信頼を得る事を大切にされた係わりを行なっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護してあげるサービスから、その人らしい生活支援を念頭に置き、一緒に過ごす中で、その人の望む暮らしは何かを考慮し、支援を心掛けています。笑顔が見られる日々であるよう、共感し、信頼し合う関係が作られています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	詳細な基本情報や記録の整備を実施し、ケアカンファレンスで利用者一人ひとりの検討がされています。日常生活場面の中では、筆談やリアクション法などを取り入れ、コミュニケーションを図りながら、さらに理解を深めようとする係わりを意識的に行なっています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	記録はより分かり易く、詳細な記載法の工夫を実施し、ショートミーティングや毎月のカンファレンスで職員間で利用者本位の協議がされています。家族の意向は計画作成時に郵送で意向確認を行ない、医療関係者の指示なども盛り込み、その人の望む暮らしの支援に具体的な計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新利用者には1ヵ月の暫定ケアプランを策定し、見極めながら、ケアプランの見直しが実施されています。3ヵ月、6ヵ月の定期期間内でのモニタリング・カンファレンスにより、状態変化に合った随時の見直しが実施されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況や要望に応じ、理美容室の送迎や自宅訪問など特別な外出支援、またホーム内に宿泊室を完備し、家族の宿泊対応も可能であるなど、ホームの多機能を活かし柔軟に支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの月1回の往診やかかりつけ医への受診支援を実施しています。受診は原則としてホーム対応とし、協力医療機関とは、利用者の変化や健康面での相談、指示をいただける密接な関係であり、適切な医療支援を実施しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、現段階では関係者間での共有、合意が図られていません。家族からの要望などもあり、ホームとしての方針が定まりつつある状況にあります。	○	医療連携体制を導入する予定にあり、ホームとして出来る最大限の方針を明確にし、それぞれの立場での力量アップを図るとともに、家族の意向確認を行ないながら、医療関係者も交えて協議するなどの取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録などの保管・管理の徹底を促しています。利用者に対する対応は、尊厳を損なわぬよう、不適切な言葉使いや対応に十分な気配りを行なっています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内の1日の流れはありますが、業務中心ではなく、その時々利用者の希望やペースに添った対応を重視し、支援を行なっています。		

余市町 グループホーム 延寿園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門職員が確保されており、四季折々の食材を取り入れた食事や、職員のさりげない会話の中、楽しい食事が支援されています。また月2回の実習日には、職員と利用者が協力しながら調理を楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則週2回以上の入浴支援を実施していますが、利用者の状態、タイミングを図り、言葉掛けに配慮されています。夜間入浴は対応できていませんが、利用者の清潔保持や気持ちの良い入浴に柔軟に対応しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の過去の経験や現状のできることを検討し、家事仕事として、お茶碗拭きやモップ掛け、ゲームや手芸、またお雛様やクリスマスなどの季節の行事を通して、一人ひとりの喜びや楽しみ、気晴らしに繋がる場面を工夫されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は車椅子対応車両で、地域の果物狩りや海浜公園、商業施設や外食など、外出を楽しんでいます。職員は、利用者が日常的に外気に触れられるよう、散歩や買物、戸外での体操など、天候や状態に配慮しながら支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアの意義を理解し、玄関及び各ユニット入り口は施錠されていません。		

余市町 グループホーム 延寿園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1度消防署の協力により、夜間想定も含めての消火、避難訓練を実施しています。ホーム内の防災機器の使用の確認を行ない、実際に備えた訓練を重ねていますが、近隣住民の方々への協力依頼は、まだ十分とは言えません。	○	災害時の様々な状況のシュミレーションを行ない、避難場所の明確化や近隣住民との協力体制の構築、必要とされる備蓄品の確保など、更なる防災対策強化への取り組みを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量の把握を実施し、一人ひとりに応じた食事調整に配慮がされています。管理が必要な特別食は外注で、また嚥下状態に合わせて刻み食やゼリーを使用するなど対応されています。	○	食材の工夫やバランスに配慮した食事が作られていますが、さらに定期的な専門家のチェックをいただき、一人ひとりに応じた食生活の支援に活かす事を期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はバリアフリーであり、共用空間は明るく柔らかな陽光が差し、居心地の良い空間になっています。段差のない玄関、男子便器や車椅子対応のトイレなど、居室近くに3箇所トイレが設置され、身体状況に配慮がされています。季節感のある装飾がされ、家庭的な雰囲気の住環境になっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物品や大切にしているものが持ち込まれています。採光への配慮もされており、利用者が自分の部屋として、安全に居心地良く過ごせるよう配慮が見られます。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。